

神楽にこめられた思い

氷川町立宮原小学校 2年 はし本 こうめい

ぼくがすんでいる宮原では、あきに三神宮のおまつりがあります。おまつりでぼくは、神楽をまいます。

神楽のれんしゅうをはじめたのは、1年生になったときです。神楽を教えてくれるのは、同じクラスのゆきちゃんのおじいちゃんです。はじめ、ぶたいであそんだり走り回ったりして、なきそうになるほどおこられました。ぶたいからそこころがりおちて、けがをしたこともありました。おこられながられんしゅうをつづけ、あきのおまつりで神楽をまいました。

たくさんの人が見ていて、まちがえずにできたかどうか分かりませんでした。ずっとこわい顔でぼくのまいを見ていたゆきちゃんのおじいちゃんが、まいおわったときに、にっこりとわらってくれました。おかあさんが、
「とってもじょうずだったよ。」

とほめてくれて、うれしかったです。もっとじょうずになりたいと思いました。

2年生になって三神宮のおまつりが近づき、神楽のれんしゅうがはじまりました。ぼくは、サッカーのれんしゅうもしていて、神楽のれんしゅうがきつくなってきました。おこられて「やめよう」と思ったことがなん回もありました。でも、そんなときは、きょ年、神楽をまいおわったときに見たゆきちゃんのおじいちゃんのえ顔や、ほめてくれたおかあさんのことばを思い出し、「つづけてみよう」という気持ちになりました。

神楽は、三神宮があるちくの、小学生の男の子しかまうことができません。クラスの友だちと話をすると、神楽をやってみたいという友だちがたくさんいることが分かりました。ぼくは、神楽をまうことができるのは、とくべつなことだと気づきました。友だちの分も、いっしょうけんめいれんしゅうして、神楽をまいたいと思いました。

今年の三神宮のおまつりでは、ゆきちゃんのおじいちゃん、おかあさん、家ぞく、町のみなさん、そして、クラスや学校みんなに、ぼくの神楽のまいを見てほしいです。